



学校だより

平成30年6月1日(金)
第774号
さいたま市立日進小学校
TEL: 663-6942

いじめは許しません

校長 飯島 政範

本校では、児童が朝、家を出る時に元気な声で「行ってきます」、学校から帰ったら元気に「ただいま」といえる毎日で充実した学校生活を送れるよう、日々の授業の充実や魅力ある教育活動の展開に努めています。

また、いじめのない、明るく張りのある学校生活を送らせるようにも努めています。しかし、いじめは、「どの学校でも、どの子にも起こり得る」問題であります。そこで、6月を「いじめ撲滅強化月間」とし、いじめを許さない学校づくりのために次のような指導を行います。

1 「いじめ」をする子は許しません。

相手が嫌がっていることを承知で、言ったりやったりするのは、「いじめ」です。「いじめ」をする人間は、大人も子どもも卑劣な人間です。どんな理由があっても、「いじめ」をしてはいけません。

2 「いじめ」を見て、知らん振りをしている子も許しません。

いじめられている子が平気そうな顔をしていても、心の中では大きく傷ついています。ひどい言葉や行為を見たり聞いたりしたときに「やめなさい」と言えない子は、いじめている子と同じなのです。

3 あなたは、「いじめられる」理由はありません。

あなたは人として胸を張って生きていくために、この世に人として生まれました。あなたの生命は、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、そして、そのお父さん、お母さん…と、「命の繋がり」の中に存在するものです。「あなたがここにいる」ことが、かけがえのない、取り替えることのできない大切なことなのです。

泣きたい時やつらい時は次のことを思い出しましょう。

○麦のように

秋に蒔いた麦の種は、12月になると5cmくらいに芽が伸びてきます。その頃、麦を足で踏む「麦踏み」を何回もします。なぜ、こういうことをするのかというと、冬は夜に霜柱が立ち、周りの土が盛り上がりしてしまうからです。昼は解け、また夜になると盛り上がります。こういうことが繰り返されると、麦の根が持ち上げられて枯れてしまいます。だから、土を踏んで土の隙間をなくします。麦は少し伸びてやっと立ち上がると、また踏みつけられます。しばらくするとまた踏みつけられます。しかし、何回も踏みつけられているから、根元が太く丈夫になります。そうすると、大きくなってから強い風が吹いても倒れない丈夫な麦に育ちます。そのために農家の人は何回も麦踏みをするのです。あなたも大きくなるまでに、よいことばかりでなく、つらいこともあるでしょう。しかし、大人になるまでに、つらいこともなければ強くなれません。いつも褒められて、いつも楽しくていつも楽ばかりしては、大人になってから、少しの風で倒れてしまいます。子どもの頃につらいことがあっても、それに負けずに頑張れる人、友だちの中で嫌なことがあってもそれを乗り越えられる強い人になることが大切です。一度なくすとリセットできない生命を粗末にはしてはいけません。麦が踏まれれば踏まれるほど強くなるように、少しの嫌なことは、乗り越えられる強い子になって欲しいと思います。それでも我慢できない時は、

○家族や友だち、先生に相談しましょう

あなたを誰よりも愛しているお父さんやお母さん、家族に相談しましょう。担任の先生をはじめ、日進小学校の先生方もあなたの味方です。校長室のドアはいつもあなたのために開いています。保健室の先生もあなたのために心のドアを開いてくれています。

* 保護者の皆様へ

思いやりのある子どもを育てるためには、親の愛情をたっぷり注いであげることが何よりも大切です。明るく、笑顔溢れる家庭は、子どものビタミンとなります。情緒は、基本的な生活習慣を身に付けさせることで安定します。あいさつ、言葉遣い、整理整頓、生活のリズムを小学校期にしっかり身に付けさせることが、今後のお子さんの能力の発揮に大きく影響します。また、過保護、過干渉、放任ではトラブル処理能力や適応力は身に付きません。ご近所の方と仲良くなり、地域の行事に積極的に参加したりして、子どもを多面的に見るようにしましょう。常にアンテナを高く、長い目、広い目、そして偏らない基本の目で子どもを見てください。

本校では開かれた学校づくりを推進しています。心配な点、疑問に思うこと、提言したいことなどありましたら、いつでもご連絡ください。